

# 社会福祉士課程の 実習とは？

---

社会福祉学専攻では、3年次と4年次に「ソーシャルワーク実習」を行います。どんなところで何を学ぶのかなど、ご紹介していきます。

# ソーシャルワーク実習の概要



- ・社会福祉士国家試験受験資格取得には、社会福祉実践現場で実習をすることが必要です。
- ・実習は児童、障害者、高齢者領域の社会福祉施設や社会福祉行政機関などで行います。
- ・実習時間は、3年次180時間、4年次60時間の合計240時間以上です。
- ・利用者の方と接したり、職員の仕事や専門的な知識・技術を実際の現場で学びます。
- ・実習をスムーズにおこなうことができるよう、中京大学には「社会福祉実習室」があります。
- ・社会福祉実習室ではスタッフが常駐し、学生のサポートをしています。

# 【補足】社会福祉士とは

---

- ・社会福祉専門職の国家資格
- ・主にソーシャルワーカーと呼ばれ、高齢・障害・児童・病院・地域・学校など様々な現場で活躍している
- ・困りごとを抱えた人(クライアント)の相談を受け、解決するために必要なサポートや支援を行う

人びとが生活していく上での問題を解決・緩和し、質の高い生活を支援する専門職です。



# 【補足】 社会福祉実習室とは



## ☆ 主な役割 ☆

- ・ 実習や国家試験についてのサポート
- ・ 福祉系の就職活動やアルバイト、ボランティアについての情報収集と提供

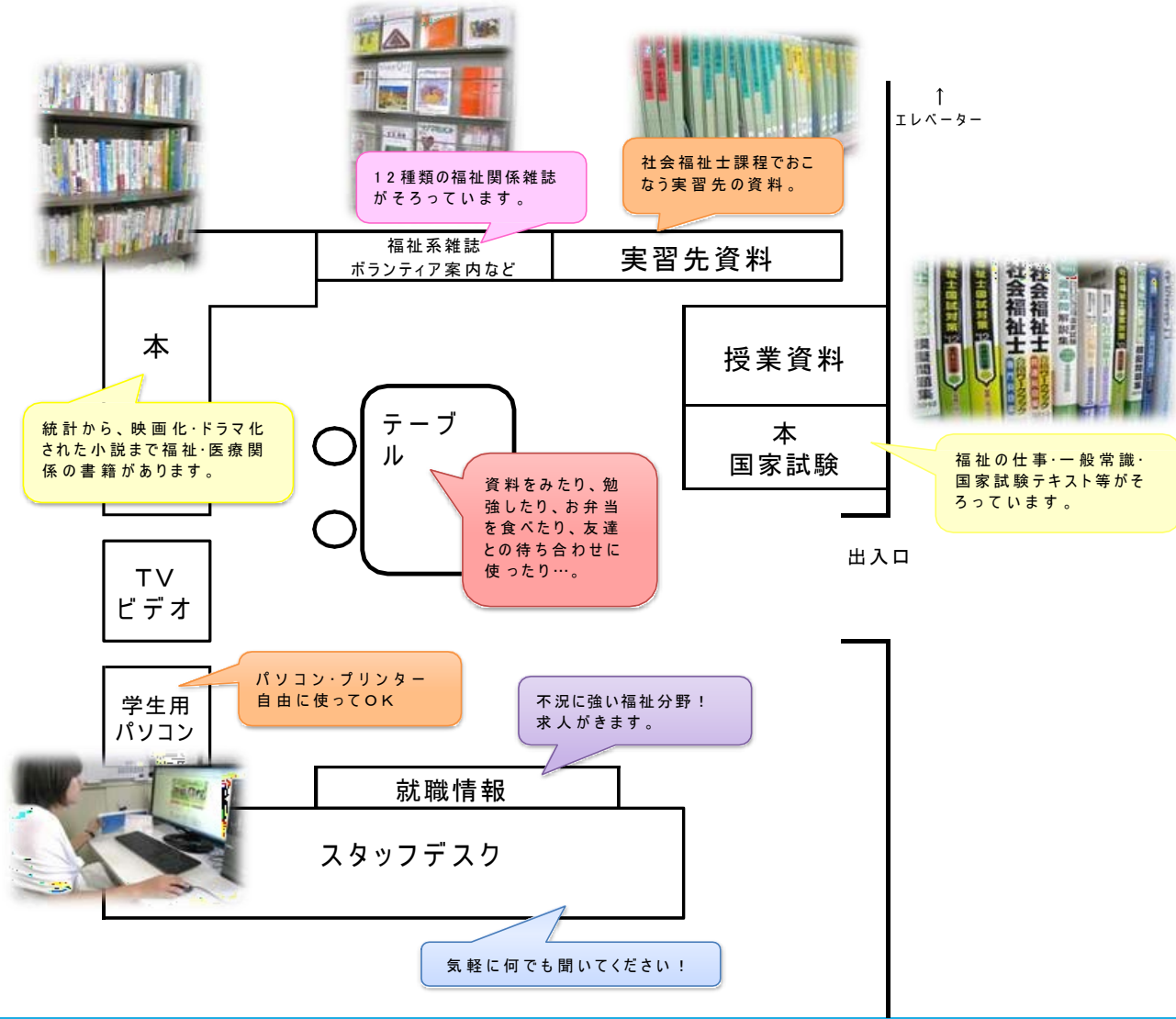
など

社会福祉に関する本や資料もあり、  
現代社会学部の皆さんどなたでも利用できる場所です 😊



# 社会福祉実習室 見取り図

9号館3階です



# 主な実習先

---

## <児童分野>

児童養護施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設、障害児通所支援 など



## <障害分野>

生活介護・入所支援、就労移行支援・就労継続支援 など



## <高齢者分野>

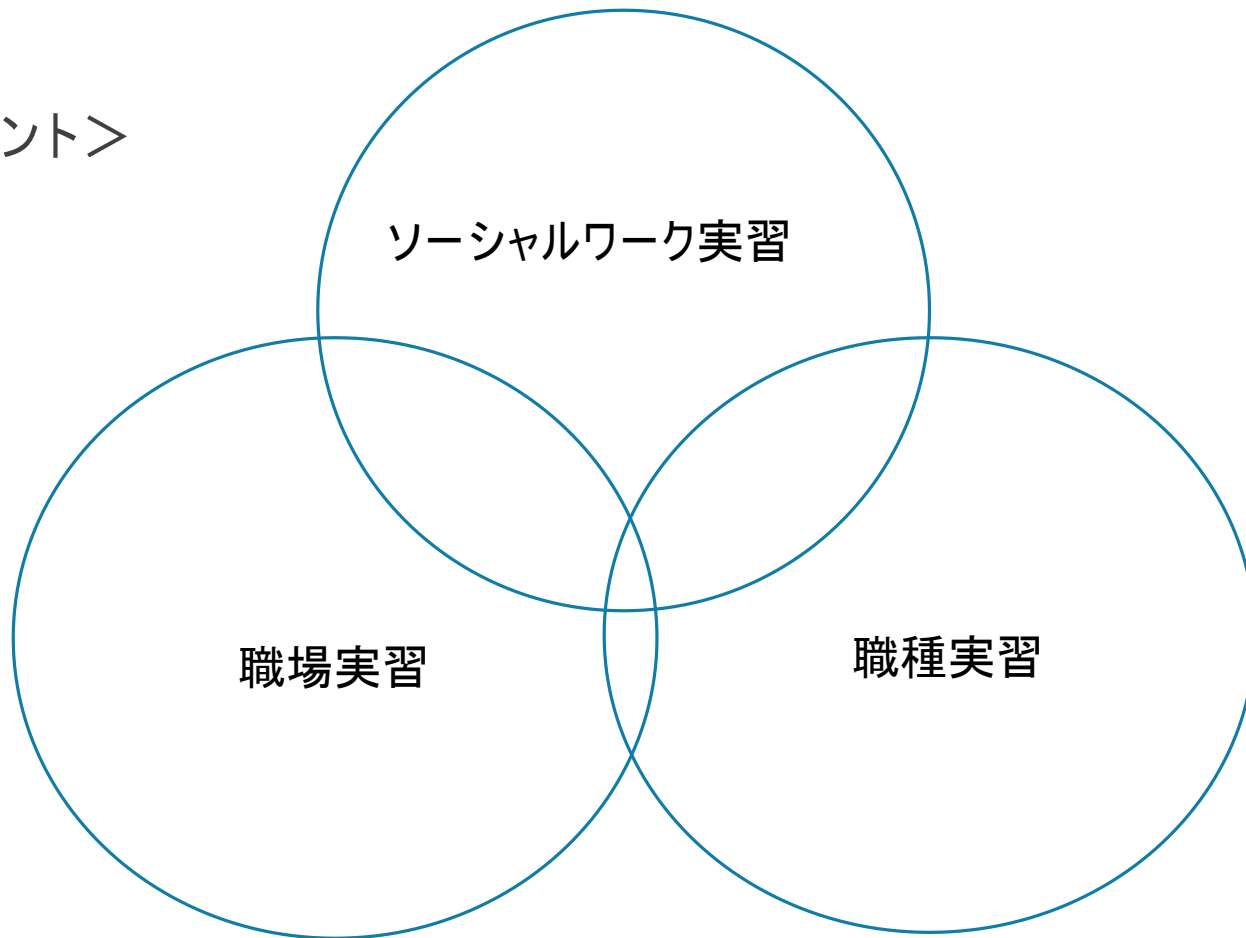
特別養護老人ホーム、デイサービス、地域密着型複合施設 など



# ソーシャルワーク実習のプログラム

---

<学びのポイント>



# 職場実習

---

その施設・機関が、こういった地域にこういった人々を対象として、何を目的に設置され、こういった体制で援助がおこなわれているかを理解する。

(例)

- ・特別養護老人ホーム入所者、デイサービス、ショートステイについて、利用者の概要(要介護度、障害、年齢構成など)を知り、施設の果たす役割を知る。
- ・介護保険制度下における、サービスの管理運営の実際を学ぶ。
- ・苦情解決のシステムや委員会活動など施設の取り組みと課題を考察する。





# 職種実習

---

社会福祉士や実習指導者が職種として担っている業務全般を学ぶ。

(例)

- ・コミュニティワーカーの1日の業務内容を観察し、社会福祉士の視点と技術を考察する。
- ・社会福祉士としての職業倫理、職員の就業などに関する規定への理解と、組織の一員としての役割と責任への理解を深める。
- ・児童福祉司の初回面接から受理会議、判定会議など、支援の流れを把握し、専門職の担う業務と役割を学ぶ。



# ソーシャルワーク実習

ソーシャルワークの価値・知識・技術：実際の援助場面で、専門職の知識や技術がどのように活用されているかを学ぶ。

ニーズ把握、アセスメント、援助目標、計画の作成、家族、地域関係調整、サービス評価、利用者の権利擁護、苦情解決、代弁、スーパービジョン、職員研修、ソーシャルアクションといった「利用者のエンパワメント」「利用者と環境との接点への介入」を行う業務を理解する。

(例)

- ・利用者やその関係者、施設・事業者・機関、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成する。
- ・児童指導員のかかわりを観察し、生活場面面接やかかわり技法を考察する。
- ・当該施設の運営管理の課題について考え、自分の意見をまとめる。
- ・利用者の個別支援計画を立て、実践し、フィードバックを受ける。
- ・利用者への権利擁護及び支援とその評価について考察する。
- ・地域社会における、住民のニーズを把握し、具体的な地域社会への働きかけ、ネットワーキング、地域支援計画について理解する。



# 実習開始～終了までの流れ

---

実習初期: 実習を意識的に過ごし、観察する。組織の中での実習生の立場を理解する。

中期: 現実の状況を把握・理解し、対象者への援助などできることを行動に移す。

後期: 行動の結果、さらに理解できたことを実習担当者に伝え、フィードバックをもらう。

実習をふりかえることで、専門職をめざす上での自己理解、自己覚知を深める。

(例) 目的: 地域における連携について学ぶ。

具体的課題: 地域で連携している機関・施設について、①それらの活動に参加する。②それぞれの資源の役割について学ぶ。③各機関や施設の職員が、どのようなやり取りを行っているのか、事例を通して学ぶ。